

学生発表会

書くことの資質・能力はどのように育成されるか

～868人のアンケート調査をもとに～

教育デザインコース 国語領域
小水（富永）亮子

1. 問題の所在と目的

<文章を書くことに対する意識の変化>

ここ数年、小学校の高学年を中心にメールやLINEをきっかけとした問題発生件数が増加しているが、その問題が発生する原因の一つに児童・生徒の文章を書くことに対する意識の変化があるのではないかと考えた。森田幸孝氏はそれについて、「表現するための言葉が未熟で、語彙が少なくなってきた」「簡単なやりとりだけで自分の意見を表出し、「言葉を磨かず」に発信するようになった」と述べている。¹⁾そこで、文章を書くことに対する意識を把握する必要があると考えた。

<学校における書くことの学習に対する意識の把握>

学校における書くことの学習は、個々が何かを書くときに役立っているのか、また、学校という場が一人ひとりに与える影響はどの程度あるのか。それらの、問題意識をもとに調査を行い、今後の学校における書くことの学習を見直したいと考えた。

2. 資質・能力について

資質・能力については、松下佳代氏の「DeSeCoのコンプタンス・モデルは要求、文脈、内的構造をもった構成要素という三者からなる。」²⁾と、国立教育政策研究所の「教育は先天的資質を更に向上させることと、一定の資質を後天的に身に付けさせる両方の観点をもつものであるとされ、「資質」は「能力」を含む広い概念とされる。」³⁾ということをもとに、定義する。また、それをもとに、今回のアンケート調査は、幅広い年齢層を対象とし、結果を段階的に見たり、比較したりしながら考察を行っていきたいと考えた。

3. アンケート調査の種類と人数

- 種類 ①小・中学生用 ②高・大学生用 ③成人用
○人数 合計 868人

4. 結果から分かる傾向や特徴（主なもの）

<Ⅰ：日常的に行っている文章を書くこと>

設問 よく書いているものはどれですか。（回答方法：選択肢）

- ・学生も成人も、年々メールの割合が増えている。
- ・成人は、仕事のやりとりもメールで行っている。

<Ⅱ：書くことに対する意識>

設問 書くことが好き（得意）ですか。（回答方法：選択肢）

- ・学生は「好き」「どちらかといえば好き」が多い。
- ・成人は「どちらかといえば苦手」「苦手」が多い。

設問（好き／得意）と思うようになったきっかけ。（回答方法：記述）

- ・学生も成人も、人との関わりや場が影響している。

<Ⅲ：学校の学習との関連>

設問 学校の学習は、役立つか。（回答方法：選択肢）

- ・学生は半数以上が「役立つ」と回答している。
- ・成人は、年齢が挙がるにつれて、「役立つ」「ときどき役立つ」が減少する。

5. 考察

○文章を書くことに対する意識の変化に関する考察

学生の女子の、学年が上がるごとに「書くことが好き」の割合が減少しているという結果をもとに、今後は書くことに対する意識が変化する理由に目を向けていきたい。

○「書くことの資質・能力」についての考察

今回は、全体的な傾向をつかむにとどまったので、今後は、質的研究も視野に入れ「書くことが得意」だと回答した人の生い立ちや、エピソードを探っていきたい。

-
- 1) 森田幸孝著『インターネットが壊した「こころ」と「ことば』』（幻冬舎、2012）
 - 2) 松下佳代著『新しい能力は教育を変えるか』（ミネルヴァ書房、2010）
 - 3) 国立教育政策研究所「育成すべき資質・能力を踏まえた教育目標・内容と評価の在り方に関する検討会——論点整理（案）——【反映版】」（2014）